

【今年度の取組目標等に関する自己評価】

1 学校経営・組織マネジメント

- ・年休取得日数は目標値(12.0日)を超えているものの、依然として勤務時間等が長い職員が多く、更なる業務縮減を検討する必要がある。
- ・各分掌とも昨年度の反省を取り入れて計画的に校務運営を図ったが、分掌間の連携については事前の情報共有等に不十分な部分が見られた。企画調整会議のほか、拡大分掌部会等の効果的な実施を検討する。
- ・OJTによる若手教員の育成には一定の成果があり、校務運営に大きな支障はなかった。

・数値目標（カッコ内は昨年度の値）

勤務時間外の在校時間が月四十五時間超の延べ人数	294名(207名)
教員の年休取得日数の年間平均	13.3日(設定なし)

2 学習指導

- ・主体的・対話的で深い学びへの取組は全職員が意識して取り組んでいる。生徒も積極的に活動する傾向があるため、引き続き授業改善に取り組んでいく。
- ・個人端末の有効活用は継続しているが全ての授業で探究的な活動を多く取り入れることは難しく、活用が限定的な場合もある。
- ・探究活動を計画的に実施し、充実した成果発表を実現した。
- ・家庭学習時間を確保する取り組みを行っているが、一方で生徒に対して過度な負担とならないように、課題の適正量に関する検討が必要になっている。
- ・授業への満足度等は向上しており、各教科の指導計画には一定の成果がみられる。
- ・若手教員が増えたことにより計画的な授業力向上が必要になっている。
- ・日常の個別指導や長期休業中の補習・補講等と部活動との共存について、これまでは個々に対応していたが学校としての検討が必要である。

・数値目標（カッコ内は昨年度の値）

授業満足度（生徒）	92.3%(88%)
学力向上への取組度（生徒）	93.4%(89%)

3 生活指導

- ・特別指導や地域からの苦情が皆無ということにはならないものの、多くの生徒が先輩の行動から学び、高い規範意識を持った行動ができています。
- ・特に体育祭や文化祭などの学校行事を単に経験するだけでなく運営に参画することで生徒の帰属意識が高まっているものと感じられる。
数値目標にある入学満足度も昨年度より高い数字となっている。

・数値目標（カッコ内は昨年度の値）

入学満足度（生徒）	95.5%(91%)
一日あたりの遅刻者数の割合	1.20%(0.50%)

4 進路指導

- ・本校の教育課程は国公立大学対応としているが、学校全体での目線合わせが不十分であった。個人の希望進路の実現という点では一定の成果をあげられたが、より高い希望へ向けた指導を行っていくことが重要である。
- ・本年度導入した「勉強マラソン」は短期間であるが集中して学習する習慣をつけるために効果があった。今後も内容を精査して実施していく。
- ・社会人講話やガイダンス等により、計画的に進路意識を高め、希望進路の実現に結びつけることができた。

- ・一部の生徒が対象であるが東京都指定による「理数研究校」の取組により、理系への興味関心を高めた。
- ・学年と進路指導部との連携について、来年度は体制を見直し、より緊密に活動できるようにしていく。
- ・**数値目標（カッコ内は昨年度の値）**
進路決定率 87.9% (88%)

5 特別活動・部活動

- ・部活動の加入率及び部活動の満足度の双方について、昨年度の数値を更新した。いわゆる幽霊部員の比率も低く、多くの生徒が充実した活動をしていると考えられる。
- ・部の運営や事務手続き等で反省すべき点があった。本年度の事例を全職員で情報共有し、より適切な運営が行えるように注意していく。
- ・多くの部活動で生徒が中心となった運営が行われており、自己肯定感や帰属意識の醸成に大きな効果があった。
- ・本年度途中で天文部が自然科学部に名称変更し、天文のみならず様々な事柄を探究する部活動となった。理数研究を推進する取り組みの一つとして重要と捉えている。
- ・**数値目標（カッコ内は昨年度の値）**
部活動加入率 93.0% (90%)
部活動充実度（生徒） 97.8% (95%)

6 安全・健康指導

- ・本校は駐輪場の関係から自転車での通学者は限定されるが、ルールやマナー面での苦情が寄せられることもあった。日常の声掛けを行うとともに、近隣警察署と連携しながら啓発活動を続けていく必要がある。
- ・計画的にセーフティ教室や避難訓練等の防災訓練を実施した。
- ・精神的な悩みを抱える生徒に対してスクールカウンセラーや担任を中心として丁寧に対応した。解決に至らない場合もあるものの、継続した見守りにより重大事態の発生を防止した。
- ・自分と相手が違う個性を持っていることについて繰り返し啓発し、他者に対してやさしく接することができる学校の実現を目指した。

7 募集・広報活動

- ・学校ウェブサイトによる本校広報は更新頻度や内容の充実度に課題があるとの指摘があった。総務部を中心として、広報体制全体の再構築が必要である。
- ・入学選抜は、私立無償化の中にあって結果的には例年と同等の成果と考えられる倍率を得ることができた。しかし、倍率自体が下がっていることは事実であるため、本校の魅力を積極的に発信していく体制づくりが求められる。
- ・**数値目標（カッコ内は昨年度の値）**
ホームページ更新回数 153回 (130回)
入選一次受検倍率 1.47倍 (1.65倍)

8 地域との連携

- ・地域防災活動への参加や近隣小学校との連携などは昨年度と同様に実施した。
- ・ボランティアへの参加のみならず、日常においても他者を助ける行動がとれる人物も多く、本年度も複数の感謝の連絡をいただいている。

9 施設設備管理・経営企画室運営

- ・学校施設の管理は適切に行われた。東京都契約による外部業者の課題や施設老朽化による故障など、複数の問題はあったが、いずれも経営企画室にて迅速・適切に対応した。
- ・**数値目標（カッコ内は昨年度の値）**
数値目標 一般需用費のセンター執行割合 52.7% (66.4%)

【課題と改善策】

- ・生徒の所持している端末は必要に応じて活用しているが、授業内ではプリント類の活用もまだ需要は多い。若手教員を中心に授業改善を促し、引き続き意識改革をしていく。
- ・本校で行っている探究活動のスタイルを維持・継承し、さらに発展させていく必要がある。そのために、計画的な引継ぎを行っていく。
- ・教員相互の授業参観は限定的で、若手教員育成の場面が多かった。経験年数を問わず相互の授業参観の回数を増やし、学校全体の指導力向上を図っていく。
- ・進路指導の充実について分掌や学年から多くの意見が出ていた。次年度は人的配置を充実し、進路部が中心となった計画的な指導の確立を目指していく。
- ・本年度実施した東京都指定の「理数研究校」はもとより1年限りの指定であったが、次年度は「理数研究拠点校」として3年間の指定を受けることになった。本年度の経験を生かして引き続き理数に関する興味・関心を増進させる取り組みを推進していく。
- ・令和7年度末に教員有志が中心となった「これからの雪谷高校を考える会」が発足した。既に2回の意見交換を実施し、年齢等に関わらず多くの職員が参加した。広報活動や学力向上と部活動との関係、教育課程など多岐にわたる内容が話題となっている。今後も、同会での意見を踏まえ、教員の意見を取り入れた学校改革を推進する。
- ・教職員の異動・退職が非常に多く、全職員の3分の1程度が入れ替わることになる。このことをプラスととらえ、本校の伝統である「文武両立」を維持しつつ、新しい考え方を積極的に取り入れて改善に結びつけていく。